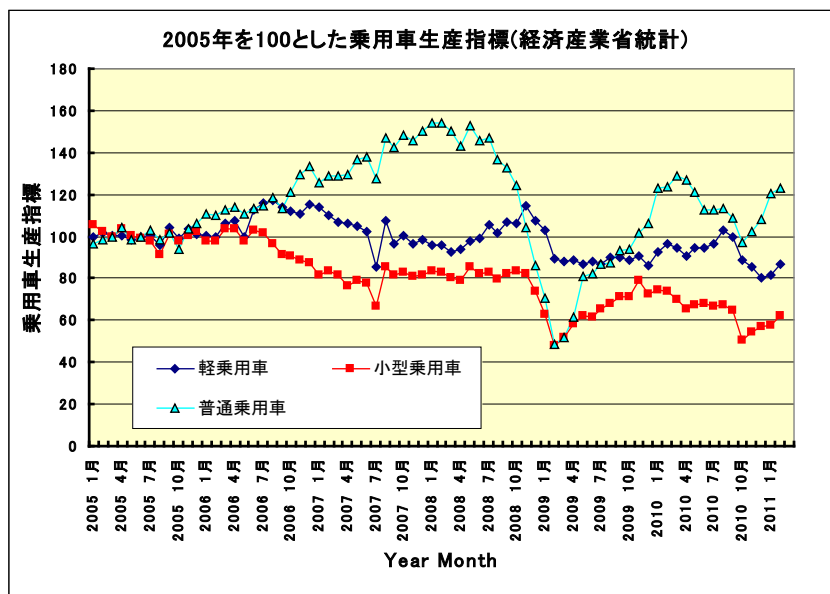
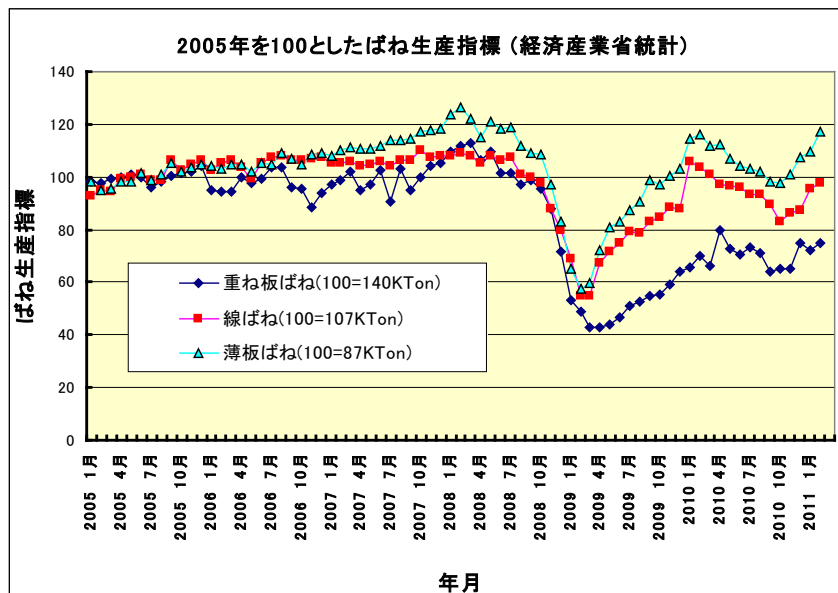


平成23年度 事業活動計画

ばね産業の環境

平成20年9月から急激に進行した世界的な金融危機(リーマンショック)からは、当初予測されていた以上に速いピッチで平成21年5月頃から回復し、ばね生産量も平成22年3月まで右肩上がりのV字回復を示していた。しかし、平成22年4月よりギリシャを発端とした欧州通貨危機および連動したドル安円高により、平成22年のばね生産量は緩やかではあるが、減少の傾向を示し、多少の回復も認められていた。

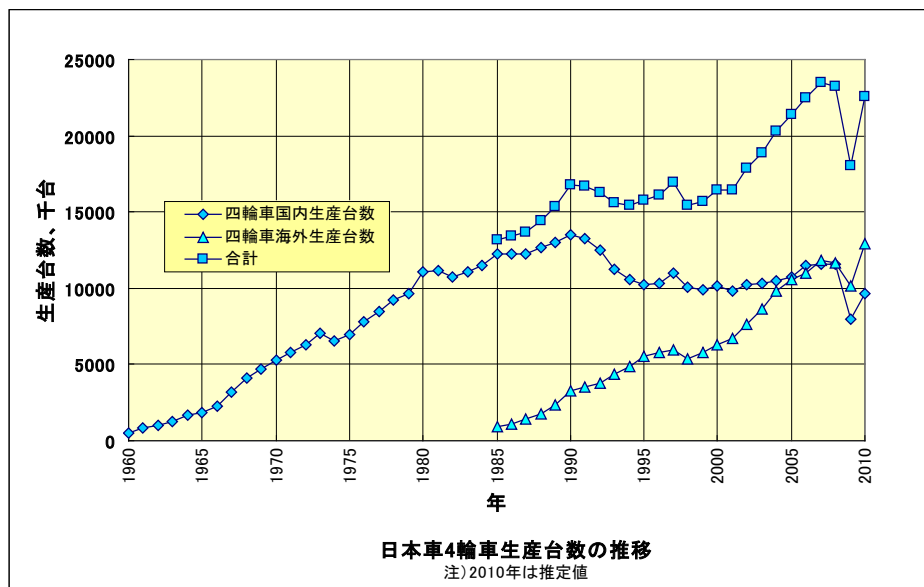
平成23年3月11日に東日本大震災が発生し、東日本では深刻な電力不足が予測されている。このような状況下、ばね産業に限らず、日本の産業は先行き不透明な状況となっており、少なくとも本年度上半期まではこの状況は続くものと予測されている。



経済産業省の統計によれば、線ばねや薄板ばねについては、平成22年度はそれぞれ、平成17年レベルの80-100%および100-120%となっている。重ね板ばねについては直近（平成23年2月）で平成17年の80%レベルまで回復している。

ばねの最大の顧客である自動車生産で見てみると、普通乗用車生産が平成22年3月で平成17年の130%まで回復したが、その後は100-120%レベルに留まっている。一方、小型乗用車については平成17年の60-70%レベルに留まっており、これは小型乗用車の海外生産が増加していることを示しているものと思われる。

日本の自動車メーカーの四輪車生産量の推移を日本自動車工業会の統計資料でまとめると下図のようになり、平成19年、20年までは国内と海外の生産台数はほぼ同数であったが、リーマンショックを境に海外生産が国内生産を超えており、今後ともこの傾向は続くものと思われる。



平成23年度 日本ばね工業会の基本方針

日本の自動車メーカーの世界生産量は平成22年で2250万台と予測されており、これは世界生産量を7000万台とした場合30%以上のシェアとなり、依然として日本の自動車産業は世界をリードしていると言える。

リーマンショックを境として、自動車生産台数が国内・海外で逆転したことは重要な転換期であると同時に、3月に発生した東日本大震災からの復興も考慮すると、今後自動車に限らず、機械産業の国内生産の空洞化がどこまで進行するかが重要なポイントとなる。

日本ばね工業会としては、引き続き国際標準化事業および国際交流のさらなる推進を進めていくこととする。また総務委員会、技術委員会、標準化会議及び技能検定委員会の活動を柱として、来年度の一般社団法人への移行を円滑に進めるためにも、引き続き、本部事業の充実と支部活動の活性化を図っていく計画である。

総務委員会

本部事務局の定常業務を管轄し、理事会で議決された特別テーマの遂行などに当たる。今年度は一般社団法人への移行認可申請、「ばねの歴史」の編纂完了、国際交流事業などに取り組み、委員会として会員相互の活発な交流を図ると共に、一層の理解と協力を得られるように事業を推進する。

(1) 国際交流事業について

平成23年9月第3回ワイヤ/チューブ東南アジア2011視察団派遣

(2) 広報活動

- ①機関誌ばねは例年通り隔月6回発行する。
- ②ばね生産実績調査統計を速やかに行い、広く関係者への閲覧に供する。
- ②ホームページの充実につとめる。機関誌とともに会員への広報活動の充実を図る。
- ③日本ばね工業会プロフィール（日文・英文併記）を改訂発行する。

(3) 改正公益法人法への対応について

本年度中に一般社団法人への移行認可申請を行い、平成24年度から新法人として活動ができるよう認可を得るべくワーキンググループ並びに事務局による準備への支援を行なう。新法人移行のこの機会に、ばねの事業者団体としてばね産業の進むべき方向、それを実現するために団体として取り組むべき事業のありかたを取り纏め理事会へ提言する。

(4) ばねの歴史編纂発刊

本年度末までに発刊するよう、ワーキンググループ並びに事務局の活動を支援する。

技術委員会

会員企業の技術者及び技能者のレベル向上を事業の柱とし、品質・安全・環境・コスト等に関する技術の提供、ばね造り技能の習得・向上および伝承、ばね設計技術の向上の三つのテーマに取り組む。

(1) 品質・安全・環境・コスト等に関する技術の提供

講習会および見学会の開催、ばねの技術相談制度の充実、技術資料の機関誌ばねおよびホームページへの掲載。

(2) ばねづくり技能の習得・向上および伝承

金属ばね製造技能士の資格取得を支援するため、ばねハンドブックの充実、受検希望者講習会を開催する。

(3) ばね設計技術の向上を目的とした講習会を開催する。

ばね技術初級講座による基礎知識習得、設計技術向上を目的としたばね技術中級、材料力学の講習会、ばね周辺技術（熱処理、表面処理、原価関連等）講習会を開催する。

標準化会議

会員ニーズに基づいた規格づくりを進め国内諸規格の整備を図るとともに、諸外国特にアジア諸国との連携を深め、国際規格づくり活動を推進する。

- (1) 日本ばね工業会 (JSMA) 規格開発事業 … 既存 47 規格の総点検作業実施と改訂。
- (2) 自動車技術会 (JASO) 規格開発事業 … 従来通り要素部会、車体・シャシ部会活動に参加。
- (3) ISO 規格関係 ISO/TC227 ばねの国際標準化活動
 - ①第 7 回 ISO/TC227 国際会議への参加。
 - 「熱間成形圧縮コイルばね」FDIS 案および「ばね記号」のDIS 案の審議。
 - 「重ね板ばね」の新規開発の可否討議。
 - ②国内委員会審議団体としての活動を行う。
 - ②ESF ビジネスミーティングに出席し、ISO/TC227 ばねの進捗状況等の情報交換を行う。
- (4) 政府関係機関委託事業の推進
 - 政府の標準化委託事業ほかから再委託を受けて以下の事業を推進する。
 - ①国際標準開発事業…「熱間成形圧縮コイルばね」、「ばね記号」の ISO 規格化。
 - ②技術協力事業…インドネシアの標準化活動の活性化を目的とした研修を 10 月に実施。
 - ③JIS 規格開発事業…B2808「スプリングピン」、B2706「皿ばね」及び B2711「ショットピーニング」の改訂を行う。

技能検定委員会 (旧 技能検定推進会議)

本年度から名称を変更し、事業運営を中心とした委員会としてより積極的な活動を展開する。「金属ばね製造技能検定実技試験」を「公益目的支出計画実施事業」として実施する。この事業は各都道府県職能協会から受託し、広く公益の為に資することを目的として積極的な運営を図る。

本事業の公正で円滑な運営を図るための下部組織として東部支部、中部支部、西部支部に「技能検定部会」を設け運営にあたる。

- (1) 金属ばね製造技能検定実技試験事業
 - ①金属ばね製造技能検定実技試験の公正で正確な運営と問題点や解決方法の検討。
 - ②事業を円滑に運営するための技能検定部会の運営、及び各都道府県技能検定試験への提案と活動内容の協議。
 - ③平成 23 年度検定試験(平成 24 年 1 月に予定)を公正、透明に実施する。
 - ⑤各技能検定部会の会計報告を適切に実施する。
- (2) 金属ばね製造技能士育成強化への協力
 - 技能士の育成に力を入れた活動をしている技術委員会へ必要な情報を提供するため情報交換会を開催する。